

地域における言語聴覚士の専門性の活かし方を検証 ～ことばの教室の先生を対象とした機能性構音障害のスキルアップ研修を開講～

池田泰子^{*1)}、藤原百合¹⁾、小島千枝子¹⁾、中村哲也¹⁾、足立さつき¹⁾、
白井有希乃²⁾、森下恵理子³⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学、²⁾ 浜松市立双葉小学校、³⁾ 磐田市立豊田南小学校

I. 目的

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会（静言研）は通級指導教室「ことば」（ことばの教室）の先生方が主催する研究会である。ここ数年静岡県西部地区の研究会から本学保健福祉実践開発研究センターへの「ことばの発達」「構音障害」に関する講演や訪問指導の依頼が増えている。2012年度は言語聴覚学科の教員（ST）3名西部地区の6ヶ所のことばの教室を訪問し、現場において機能性構音障害の指導について助言を行った。訪問指導を行った教員からは指導する際にことばの教室の先生方との共通言語・認識を持ってないことがあり、やりにくさを感じたという感想が挙がった。ことばの教室の先生は言語聴覚士のようにことば・構音について専門的な機関で学んではおらず、静言研が開催する年数回の研修会に参加することを通して自己研鑽をし、職務にあたっている。ことばの教室の先生方から「言語・構音についてしっかり勉強したいが勉強する場がない」という声が耳にすることが多かったので、今回、言語聴覚士とやりとりする際の共通言語を持っていただくこと、スキルアップをして早期に指導が完了することを目標として、機能性構音障害についての集中講座を開催した。言語聴覚士が個人としてではなく組織としてことばの教室の先生方の支援を行うことが本研究の独自性である。

II. 方法

2013年8月23・24日の2日間、静岡県西部地区ことばの教室幼児部・児童部の先生方を対象に機能性構音障害の集中講座を開催した。スケジュールについては下記の通りである。

2013年度機能性構音障害夏期集中講座 スケジュール

8月22日		8月23日	
900～950	講義「音のしくみ」① ～呼吸・発声・共鳴・構音のプロセス～	900～950	演習「音の作り方」
950～1000	休憩	950～1000	休憩
1000～1030	講義「音のしくみ」②～異常構音～	1000～1050	演習「音の汎化」
1030～1045	休憩	1050～1100	休憩
1045～1200	演習「構音検査の流れ」	1100～1230	事例検討①
1200～1300	お昼休憩	1230～1330	お昼休憩
1300～1330	茶話会	1330～1350	茶話会
1330～1415	演習「音の聴き取り」	1350～1520	事例検討②
1415～1425	休憩	1520～1535	休憩
1425～1515	演習「検査結果から指導へ」	1535～1640	講義「まとめ」「質疑応答」
1515～1530	休憩	1640～1650	休憩
1530～1700	演習「模擬患児を対象とした評価」	1650～1700	修了証授与

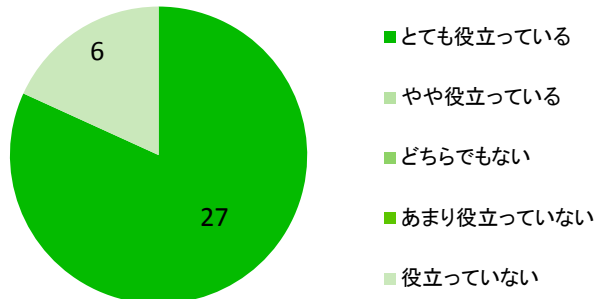
静言研が参加者を募ったところ、幼児部19名、児童部16名、計35名が希望した。静言研には講座参加前と参加1ヶ月後の2時点で講座参加者を対象に構音訓練の困り感について質問紙調査を実施してもらった。その後、講座で学んだことが現場で活かされているかを把握するために1教室の来校指導・1教室の訪問指導を行った。

Ⅲ. 結果

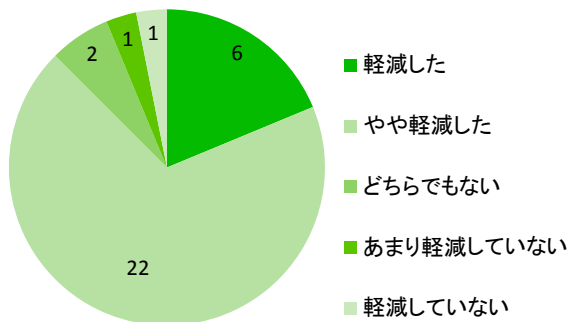
35 名中 33 名分の回答を得た。(回収率：94.3%)

1. 講座 1 ヶ月後の結果

①「講座の内容は指導場面で役立っていますか」

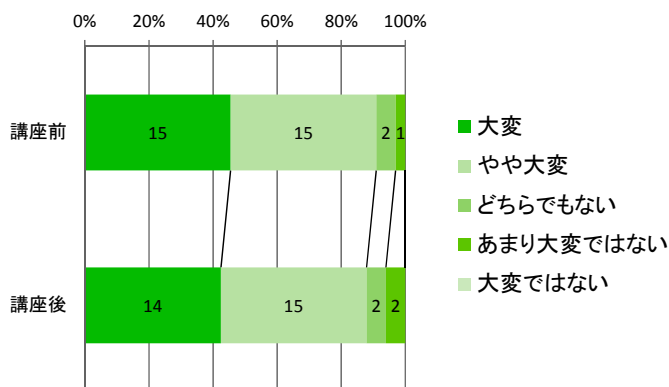


②「講座を受講したことで指導の不安は軽減しましたか」

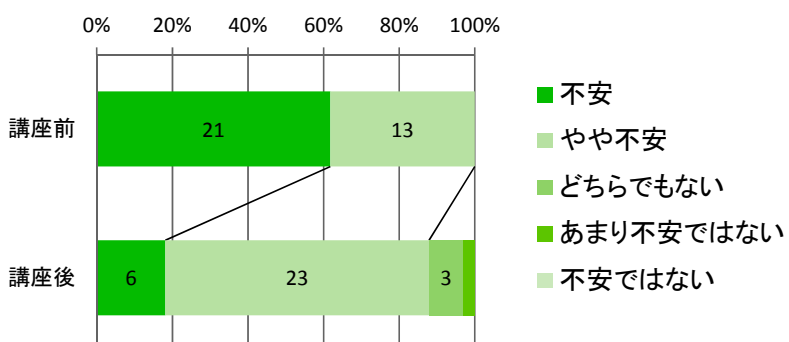


2. 講座前と講座 1 ヶ月後の比較

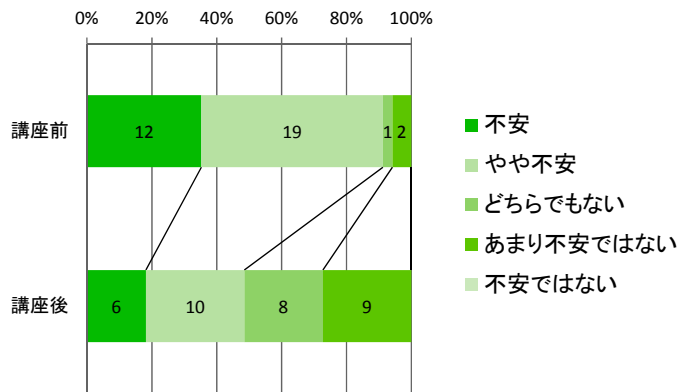
①「ことばの教室の指導は大変だと感じている」



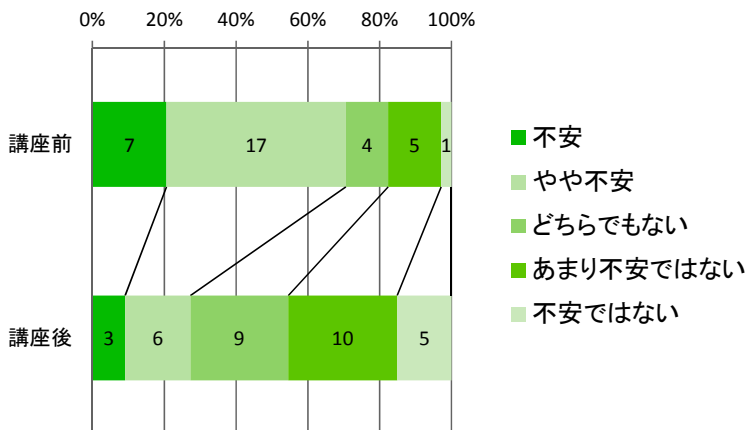
②「自分が行っている指導に不安を感じている」



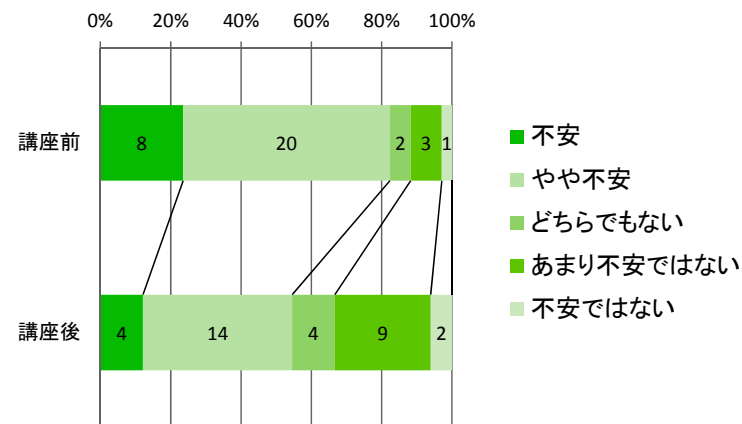
③「音のしくみを理解しているか不安に感じている」



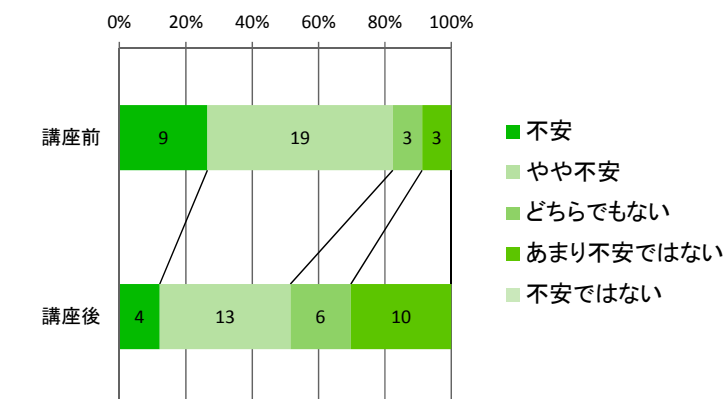
④「発音(構音)の検査のやり方に不安を感じている」



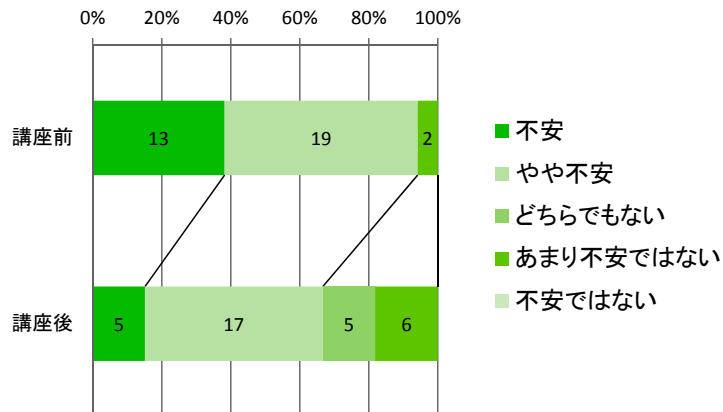
⑤「構音の聴き取りに不安を感じている」



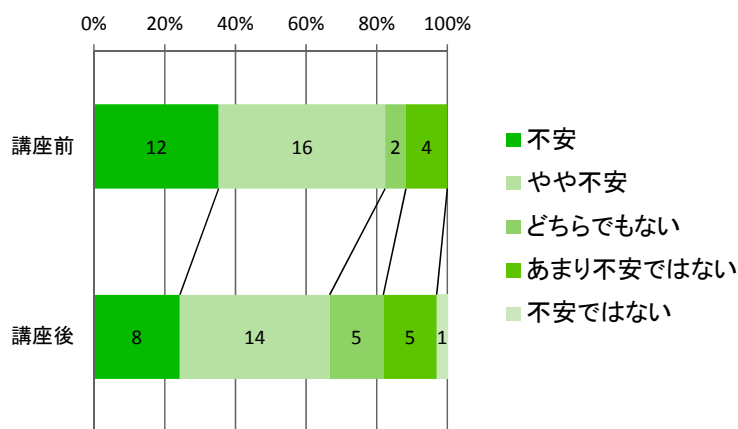
⑥「検査結果を指導に活かす方法について不安を感じている」



⑦「音の作り方に不安を感じている」



⑧「音が完成した後、日常会話に汎化させるステップに不安を感じている」



3. 講座 1 ヶ月後の自由記述から抜粋

<研修について>

「指導法について、何も知らないまま、現場に入り、研修によって知ったのは後からだった…というのが現実。正直、不安だらけの指導でしたので、今回良い機会を得ました。」
「ことばの教室担当になった時、何一つ学んでいない状態です。それでも始まっていきます。これでよいのか…と思い悩んでいます。採用が決まったら、すぐに研修に出て、学ぶべきだと思う。」

「2 日間、充実した研修会を開いてくださり、本当にありがたかったです。ことばの教室担当は（児童）担当者がかわり、長く同じ職についている人ばかりではないという点で、積み上げが難しいです。全国では、3 年未満の経験者がたぶんかなりの数を占めています。そんな中で、静岡県の西部地区の今回の取り組みは、ものすごいことだと思います。」

<成果>

「早速、受講した事を、お手本に指導していったら、子どもの発音がすぐに出た。」
「今回、講座に参加させて頂き、基本的なことを学べ、とても勉強になりました。本を読んでも、分からなかったこともあったけれど、講座 1 日目とても分かりやすく、指導をする上で考えやすくなりました。」
「担当者側の姿勢が少しか変わったからか、保護者から子どもの取り組み方が変わったと言われたから。」
「言語聴覚士の専門の先生方に教えていただいたことで、「指導はこれで良かったかな。」
「この指導ではちょっとマズいな」など、今までやって不安だったことが、「何故このや

り方か」ということから、自分で判断できるようになってきた。」
「構音点や構音の仕組み等について、保護者に分かり易く説明できるようになった。毎日の指導に、自信がもてるようになった。」

4. 訪問指導

2014年3月に指導に困っているとの訪問指導の依頼があり、ことばの教室1校を訪問した。事前打ち合わせでは共通言語を用いて子どもの構音の状態について話すことができた。指導場面では言語聴覚士が提案したことをことばの教室の先生にやっていただいたが、集中講座で話した基礎的な内容では対応できないと判断し、その後、言語聴覚士が子どもの指導を行った。

Ⅲ. まとめ

「講座の内容は指導場面役立っていますか」という質問に対し全員が「とても役立っている」「やや役立っている」と回答、「講座を受講したことで指導の不安は軽減しましたか」という質問に対し、約90%が「軽減した」「やや軽減した」という回答したことから言語聴覚士がことばの教室の先生方を対象に行った機能性構音障害の集中講座は有効であったと考える。質問紙の自由記述にあったようにことばの教室担当になった時には構音についての専門知識がほとんどない状態で指導を行っていて、今回開催した集中講座のような研修が望まれていることは明らかとなったが、今後継続していくには教育委員会、静言研、言語聴覚士が協力して研修システムに組み入れていくことが課題である。

Ⅳ. 発表、論文発表の状況

第16回日本言語聴覚学会で発表予定